

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	疫病	褐色腐敗病	灰色かび病	半身萎凋病	菌核病	黒枯病	苗立枯病	フザリウム立枯病	すすかび病	うどんこ病	褐色斑点病	褐色円星病	褐色紋病
サンボルドー水	M1		-	-	◎	◎											
アグロケア水	BM2		1	-			◎						◎	◎			
インプレッションクリア水	BM2		*e	-									◎				
タフパールFL	BM2		*e	-									◎				
サンクリスタル乳			1	-										◎			
ジーファイン水	NC・M1		1	-						◎				◎			
トップジンM水	1		1	5			◎		◎	◎							
ベンレート水	1		1	3			◎		◎	◎		◎					
		*b						◎									
アフエットFL	7		1	3			◎		◎				◎	◎	◎	◎	
カンタスDF	7		1	3			◎		◎				◎				
ケンジャFL	7		1	3			◎		◎					◎			
パレード20FL	7		1	3			◎		◎	◎			◎	◎			
アミスター20FL	11		1	4									◎	◎	◎		
ストロビーFL	11		1	3									◎	◎			
ファンタジスタ顆水	11		1	3			◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
ライメイFL	21		1	3			◎										
ランマンFL	21		1	4			◎										
フルピカFL	9		1	4			◎							◎			
セイビアーFL20	12		1	3			◎					◎			◎		
シミレックス水	2		1	6			◎		◎								
ロブラール500アクアFL	2		1	4			◎										
ロブラール水	2		1	4			◎		◎	◎			◎		◎		
リゾレックス水	14		*c	1							®						
リゾレックス粉	14		*d	1							®						
サブロール乳	3		1	5										◎			
スコア顆水	3		1	3									◎	◎			
トリフミン水	3		1	5									◎	◎			
ピクシオDF	17		1	4			◎		◎								
ポリオキシシナL溶	19		1	3			◎						◎	◎			
ピシロックFL	U17		1	3			◎										
サンヨール乳	M1		1	4									◎	◎			
オーソサイド水80	M4		*a	5							◎						

ナ

ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	疫病	褐色腐敗病	灰色かび病	半身萎凋病	菌核病	黒枯病	苗木立枯病	フザリウム立枯病	すすかび病	うどんこ病	褐色斑点病	褐色円星病	褐色紋病
ダコニール1000FL	M5		1	4			◎			◎		◎		◎			
ベルグートFL	M7		1	3			◎			◎		◎		◎			◎
パルミノFL	M10		1	3								◎		◎			
モレストン水	M10		1	3										◎			
エコピタ液	-		1	-										◎			
モベントFL	-		*f	1										◎			
			1	3									◎				
フォリオゴールドFL	4・M5		1	3		◎						◎		◎			
ゲッター水	1・10		1	5			◎		◎	◎							
ニマイバー水	1・10		1	3			◎		◎	◎			◎	◎	◎		
スミブレンド水	10・2		1	5			◎		◎								
シグナムWDG	7・11		1	3			◎		◎				◎	◎	◎		
ピカットFL	7・9		1	3			◎						◎	◎			
ベジセイバーFL	7・M5		1	3			◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎	
ホライズンDF	11・27		1	3		◎											
アミスターオブティFL	11・M5		1	4		◎	◎			◎			◎	◎			
ドーシャスFL	21・M5		1	4		◎				◎							
ショウチノスケFL	9・U13		1	2			◎							◎			
ジャストミート顆水	12・17		1	3			◎										
パンチョTF顆水	3・U6		1	2										◎			
ダイマジン水	17・M7		1	3			◎						◎				
ダイアメリットDF	19・M7		1	3			◎		◎	◎			◎	◎			
ポリベリン水	19・M7		1	3			◎							◎	◎		
ベトファイター顆水	40・27		1	3		◎											
フェスティバルC水	40・M1		7	3		◎											
カーニバル水	40・M5		7	3		◎	◎						◎	◎			
プロポーズ顆水	40・M5		1	4		◎							◎				
ブリザード水	27・M5		1	3									◎	◎			

*a: 播種後～2～3葉期まで *b: 定植後～収穫14日前 *c: 播種時 *d: 播種前
 *e: 発病前～発病初期まで *f: 育苗期後半～定植当日
 ㊟: リゾクトニア菌による病害

ナ
ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	カメムシ類	コナカイガラムシ類	ハモグリバエ類	オオタバコガ	ヨトウム	ハスモンヨトウ	ネキリムシ類	コガネムシ類	テントウムシダマシ類	ケダマシ類	ハダニ	チャノホコリダニ	ネコブセンチュウ
除虫菊乳3*	3A		1	5	◎		◎													
スピノエース顆水	5		1	2			◎				◎									
コロマイト乳	6		1	2	◎					◎								◎	◎	
アタックオイル	UNM		-	-														◎		
スプレーオイル	UNM		-	-														◎		
トモノールS	UNM		-	-														◎		
ラビサンスプレー	UNM		-	-														◎		
サンクリスタル乳	-		1	-	◎	◎												◎	◎	
バイデートL粒	1A	劇	*i	1	◎		ナ													◎
ネマキック粒	1B		*e	1																◎
ネマトリンエース粒	1B		*e	1		オ	ナ											◎		◎
オルトラン粒	1B		*b	1	◎	オ	◎							◎						
カルホス粉	1B		*c	2										◎						
サイアノックス乳	1B			2												テ				
ジェイエース粒	1B		*b	1	◎	オ	◎													
スミチオン乳	1B			5	◎										◎					
ダイアジノン乳40	1B	劇	*Q	3	露										ろ			露		
ダイアジノン粒5	1B		*c	2										◎			◎			
			*h	3											◎					
マラソン乳	1B			6	◎														◎	
アーデント水	3A			4	◎		カ					◎							◎	
アグロスリン乳	3A	劇		5	◎	オ	ナ													
アディオソ乳	3A			3	◎	オ		◎								◎				
ガードベイトA粒	3A		*p	3										◎						
テルスターFL	3A	劇		3	◎														◎	
トレボン乳	3A			3	◎	◎														
トレボンMC	3A			3	◎															
マブリック水20	3A	劇		2	◎	オ													◎	
ロディー乳	3A	劇		5	◎	オ													◎	
アクタラ粒5	4A		*b	1	◎	◎	ミ		マ					◎						
			*d	1	◎															
アクタラ顆溶	4A			3	◎	◎	ナ		マ						◎					
アドマイヤー1粒	4A		*d	1	◎															
			*b	1	◎		◎													
アドマイヤー顆水	4A	劇		2	◎	◎	◎													
アドマイヤー水	4A	劇		2	◎	◎	◎													
アルバリン顆溶	4A			2	◎	◎	◎	◎												
スタークル顆溶	4A			2	◎	◎														
アルバリン粒	4A		*f	2	◎	◎														
			*b	1	◎	◎	◎			◎										
スタークル粒	4A		*i	1	◎	◎				◎										

ナス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (回数)	使用 回数	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ イ ガ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	カ メ ム シ 類	コ ナ カ イ ガ ラ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	オ オ タ バ コ ガ シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	テ ン ト ウ ム シ ダ マ シ 類	ケ ダ ニ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類
ダントツ溶	4A		1	3	◎	◎	◎	◎	◎							◎			
ダントツ粒	4A		*n	3	◎	◎			マ										
バリアード顆水	4A	劇	1	3	◎	◎													
ベストガード溶	4A		1	3	◎	◎	ナ	◎											
ベストガード粒	4A		1	3	◎	◎	ナ												
			*b	1	◎	◎													
			*i	1	◎	◎													
			*k	1	◎	◎													
			*d	苗	苗														
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3	◎	◎	◎	◎	◎						◎				
モスピラン粒	4A		*b	1	◎	◎	ナ								◎				
			*g	1	◎	◎													
トランスフォームFL	4C		1	2	◎	◎													
ディアナSC	5		1	2		◎	◎		◎	◎		◎							
アグリメック乳	6	劇	1	3	◎	◎												◎	
アニキ乳	6		1	3	◎	◎				◎	◎		◎						◎
アフーム乳	6		1	2	◎	◎				◎	◎		◎					◎	◎
コルト顆水	9B		1	3	◎	◎		ス											
チェス顆水	9B		1	3	◎	◎													
ニッソラン水	10A		1	2															◎
バロックFL	10B		1	1															◎
コテツFL	13	劇	1	4			ミ			◎	◎	◎			◎			◎	◎
アタブロン乳	15		1	3			ナ			◎		◎							
カウンター乳	15		1	4	◎	◎			◎	◎		◎							
カスケード乳	15		1	4	◎	◎	ナ	◎	マ	◎									◎
ノーモルト乳	15		1	2	◎								◎						
マッチ乳	15		1	4						◎									
アブロード水	16		1	3	タ														幼
トリガード液	17		1	3					マ										
ファルコンFL	18		1	2						◎		◎							
マトリックFL	18		1	3						◎		◎							
カネマイトFL	20B		1	1															◎
マイトコーネFL	20D		1	1															◎
ダニトロンFL	21A		1	1															◎
ピラニカEW	21A	劇	1	1															◎
トルネードエースDF	22A		1	2						◎		◎			◎				
アクセルFL	22B		1	3						◎		◎			ニ				
モベントFL	23		*L	1	灌	灌	灌												灌
			1	3	◎	◎	◎												◎
スターマイトFL	25A		1	1															◎

ナ
ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ナ ジ ラ ウ マ シ 類	カ ザ ミ ウ マ シ 類	カ メ ム シ 類	コ ナ カ イ ガ ラ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ シ 類	オ オ タ バ コ ガ シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	テ ン ト ウ ム シ ダ マ シ 類	ケ ラ	ハ ダ ニ	チ ヤ ノ ホ コ リ ダ ニ	ネ コ ブ セ ン チ ユ
ダニサラバFL	25A		1	2															◎	
ダニコングFL	25B		1	1															◎	
フェニックス顆水	28		1	3							◎		◎							
プリロソソ粒	28		*m	1	◎	◎	◎			◎										
ブレバソソFL 5	28		*L	1						灌			灌	灌						
				2						◎	◎		◎							
ブレバソソ粒	28		*m	1						◎				◎						
ペリマークSC	28		*L	1	灌	灌	灌			灌					灌					
ヨーバルFL	28		*L	1	灌	灌				灌	灌		灌							
				3	◎	◎	◎			◎	◎		◎							
ウララDF	29		1	3	◎	◎	カ													
グレーシア乳	30		1	2		◎	◎			◎	◎		◎						◎	◎
ダニオーテFL	33		1	2															◎	
ファインセーブFL	34	劇	1	3		バ	◎													
バルミノFL	UN		1	3		◎														◎
プレオFL	UN		1	4			◎			◎	◎		◎							
モレストン水	UN		1	3																◎
エコピタ液	-		1	-	◎	◎														◎
ミネクトデュオ粒	4A・28		*j	1	◎	◎	◎			◎				◎						
			*d						◎											
アブロードエースFL	16・21A		1	3		◎														◎
ダブルフェースFL	21A・25B		1	1															◎	◎

*:商品により適用病害虫等が異なる。

*b:定植時 *c:播種時又は定植時 *d:育苗期後半 *e:定植前

*f:生育期(但し収穫前日まで) *g:定植前日~定植当日 *h:収穫開始3日前まで

*i:育苗期 *j:鉢上げ時~育苗期後半 *k:播種時又は鉢上げ時

*L:育苗期後半~定植当日 *m:育苗期後半~定植時 *n:定植後(但し収穫前日まで)

*p:生育初期 *Q:収穫開始3日前まで

オ:オンシツコナジラミ カ:ミカンキイロアザミウマ ス:カスミカメムシ類

タ:タバココナジラミ類幼虫及びオンシツコナジラミ幼虫 テ:テントウムシダマシ類

ナ:ミナミキイロアザミウマ ニ:ニジュウヤホシテントウ バ:タバココナジラミ類

マ:マメハモグリバエ ミ:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ

ろ:露地栽培でテントウムシダマシで登録

灌:灌注処理で登録

幼:幼虫

露:露地栽培

苗:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットに散布

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発消生長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	露地		—				—					
	灰色かび病					—						
	うどんこ病						—		—			
虫害	アブラムシ類					—		—		—		
	ハダニ類						—		—			
	チャノホコリダニ						—		—			

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発消生長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	生育期	1. 高畦にして畑の排水をはかる。 2. マルチ栽培をする。 3. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 サンボルドー(水) 300~600倍	
褐色腐敗病	生育期	1. 高畦にして畑の排水をはかる。 2. マルチ栽培をする。 3. 発生を見たら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ピシロックフロアブル 1000倍 ホライズンドライフロアブル 2500倍 ランマンフロアブル 2000倍	褐色腐敗病は疫病の一種であり、6月中旬~9月下旬に高温多雨の年に発生が多い。
灰色かび病	生育期	1. ハウス内では過湿に注意する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤● 1000~1500倍 スミレックス水和剤● 1000~2000倍 セイビアーフロアブル20 1000~1500倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 フルピカフロアブル● 2000~3000倍 ベルコートフロアブル 2000倍	施設栽培で発生が多いが、低温多湿が続くと露地でも発生する。果実の発病は咲き終わった花卉から始まるので、多発期には花卉を摘み取ってやると良い。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので、連用しない。

ナ
ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
半身萎凋病	播種前	1. 床土消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. トルバム・ビガー、トレロなどの台木を用いて接木栽培を行う。	病原菌は多犯性でイチゴ、ウド、オクラ、フキ、キク等を侵す。 トルバム・ビガーは低温期の生育が遅いので注意する。 接木栽培とマルチ畦内消毒を併用すると効果が高い。
	定植前	・本畑は消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	
	生育期	・次の薬剤を土壌灌注する。 ベンレート水和剤 500倍 200~300ml/株 1000倍 400~600ml/株	
黒枯病	生育期	1. マルチ栽培する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤 1500倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 ロブラール水和剤 1000~1500倍	黒枯病は施設で発生が多いが、多湿時には露地でも発生する。
苗立枯病	播種前および播種時	1. 床土を消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 播種時に次の薬剤を灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍 3ℓ/m ²	病原菌はリゾクトニア菌、ピシウム菌、フザリウム菌による。 #リゾクトニア菌にのみ有効である。
	発芽後	・発病したらすぐ抜きとる。その跡や周りに次の薬剤を灌注する。 オーソサイド水和剤80 800倍 2ℓ/m ²	
すすかび病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 トリフミン水和剤● 3000倍 ベルコートフロアブル 2000倍 ロブラール水和剤● 1000倍	施設で発生が多いが、露地でも梅雨期や秋雨期に多発することがある。 ●耐性菌生じるおそれがあるので連用しない。
うどんこ病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 サブロール乳剤● 1000~2000倍 トリフミン水和剤● 3000~5000倍 パンチョTF顆粒水和剤● 2000倍 ベルコートフロアブル 2000倍	●耐性菌を生じるおそれがあるのでDMI剤は連用しない。

ナ

ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
青枯病	播種前	1. 床土消毒をする。(土壌消毒の項参照)。 2. 接木栽培を行う。	トマトの青枯病の項参照
	定植前	・ 本畑は消毒を行う。(土壌消毒の項参照)。	
	生育期	1. 高畝栽培する。 2. 発病株は早期に処分する。	
半枯病	定植前	1. 発生圃場ではナス以外の作物を栽培する。 2. 接木栽培を行う。	病原菌はナスのみを侵し、土壌中に長期間生存する。 発生がひどい場合には耐病VFを台木として接木栽培する。
	生育期	・ 発病株は早期に処分する。	
褐色斑点病	生育期	1. 被害茎葉・果実を除去する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフェットフロアブル 2000倍 ポリベリン水和剤 1000倍	リゾクトニア菌により葉腐れ、落葉、果実腐敗を生ずる。 発生は突発的で、気象条件に大きく左右される。7~9月降雨が連続すると蔓延が速い。
アブラムシ類(モモアカアブラムシ・ワタアブラムシなど)	定植時	・ 次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アクタラ粒剤 1g/株 アドマイヤー1粒剤 1~2g/株 オルトラン粒剤 1~2g/株	
	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000~4000倍 ダントツ水溶剤 2000~4000倍 マラソン乳剤 2000~3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍	
コナジラミ類	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アブロードエースフロアブル 1000~2000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000~3000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000~3000倍 ベストガード水溶剤 1000~2000倍	

ナ
ス

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍	
ミナミキイロアザミウマ	定植時	・次の薬剤のいずれかを施用する。 ベストガード粒剤 (植穴土壌混和) 1～2 g/株 モスピラン粒剤 (植穴土壌混和) 1 g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤# 2000倍 モスピラン顆粒水溶剤# 2000～4000倍	#アザミウマ類での登録
トマトハモグリバエ	生育期	・発生を見たら早めに次の薬剤のいずれかを散布する。 プレオフロアブル# 1000倍 プレバゾンフロアブル5# 1000～2000倍	#ハモグリバエ類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アファーム乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000倍 コテツフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバゾンフロアブル5 2000倍	*野菜類での登録
ネキリムシ類	は種時又は定植時	・次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 カルホス粉剤 6 kg/10 a ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10 a	発生量は多くない。被害株の株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
	生育初期	・次の薬剤を株元散布する。 ガードベイトA(粒) 3 kg/10 a	
テントウムシダマシ類(ニジュウヤホシテントウ・オオニジュウヤホシテントウ)	生育期	・発生が多いときは次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 サイアノックス乳剤# 1000倍 スミチオン乳剤 1000～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000～4000倍	ジャガイモを加害後、ナス、トマト、ゴボウなどに移り被害を与える。 #テントウムシダマシでの登録

ナス(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハダニ類	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 コロマイト乳剤 1500倍 スターマイトフロアブル 2000倍 ダニサラバフロアブル 1000倍 	乾燥が続くと発生が多い。多発すると防除がむずかしい。初期のうち、むらのないよう防除する。
チャノホコリダニ	発生初期	<ul style="list-style-type: none"> 被害症状が見られたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 アプロードエースフロアブル 1000倍 コテツフロアブル 2000倍 モレスタン水和剤◇ 2000倍 	<p>夏期、高温乾燥条件で多発する。</p> <p>◇モレスタン水和剤は花卉に葉斑が出るが、着果などにほとんど影響はない。</p>
ネコブセンチュウ	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 床土は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 	<p>△定植前のネマトリンエース粒剤の施用は、オンシツコナジラミ、ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類にも登録がある。</p>
	定植前	<ol style="list-style-type: none"> 作付予定地で前作物に寄生があったところでは土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 次の薬剤のいずれかを全面土壤混和する。 ネマキック粒剤 15~20kg/10 a ネマトリンエース粒剤△ 15~20kg/10 a 	